

【第11次高齢者保健福祉計画・第10期介護保険事業計画】
○介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び在宅介護実態調査

調査概要

1. 調査目的

本調査は、令和9年度から令和11年度までを計画期間とする「第11次宮津市高齢者保健福祉計画・第10期宮津市介護保険事業計画」の策定のための基礎資料とすることを目的とし、本市在住の65歳以上の方の健康や生活実態、介護の実態等を把握するために実施した。

2. 調査設計

- 調査地域：宮津市内全域
- 調査対象：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
宮津市在住の65歳以上で、要介護1から5までの認定を受けていない方
在宅介護実態調査
宮津市内の在宅で生活している要支援、要介護認定を受けている方及びその方を介護する家族
- 調査方法：郵送配布、郵送回収
- 調査期間：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
令和7年12月3日（水）～12月22日（月）
在宅介護実態調査
令和7年12月3日（水）～令和8年1月7日（水）

3. 回収状況

	発送数	有効回答数	有効回答率
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	5,720 件	3,676 件	64.3%
在宅介護実態調査	720 件	404 件	56.1%

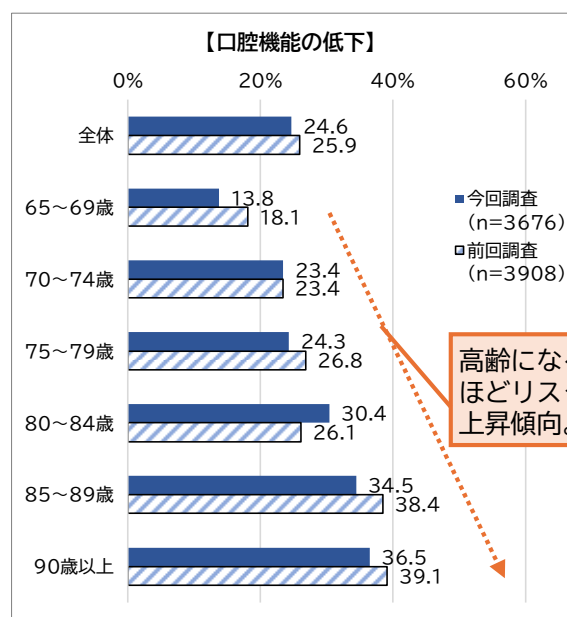
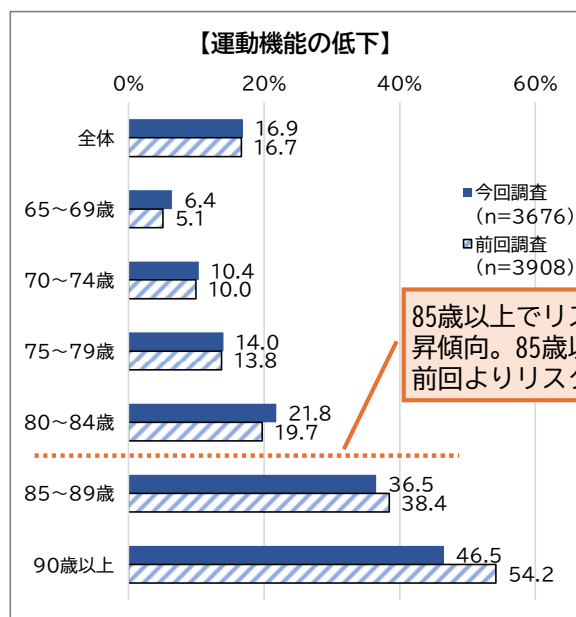
（参考：前回のアンケート回収状況）

	発送数	有効回答数	有効回答率
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	5,933 件	3,908 件	65.9%
在宅介護実態調査	787 件	426 件	54.1%

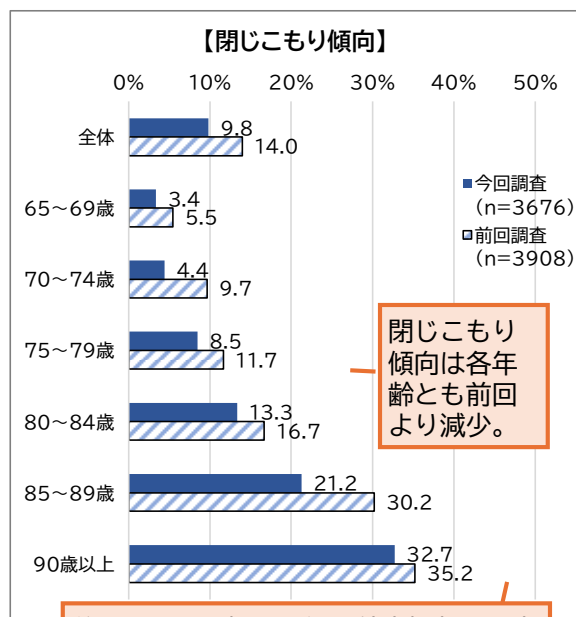
宮津市介護予防・日常生活圏域二一ズ調査結果 概要

1. 高齢者の生活機能の低下

① 身体的要素



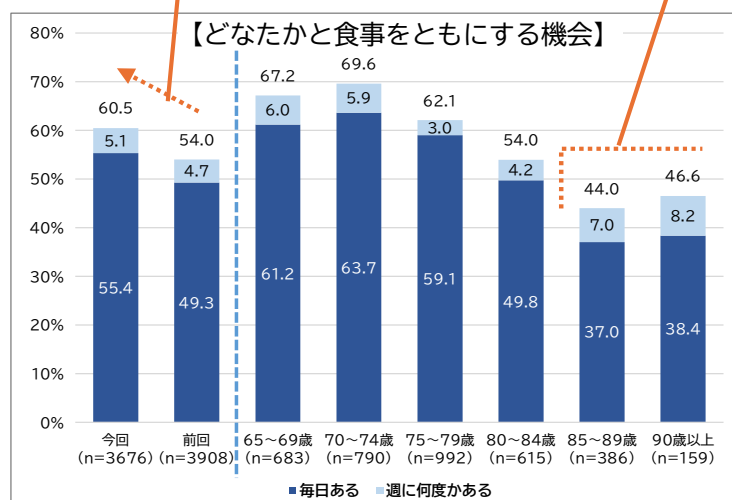
② 社会的要素



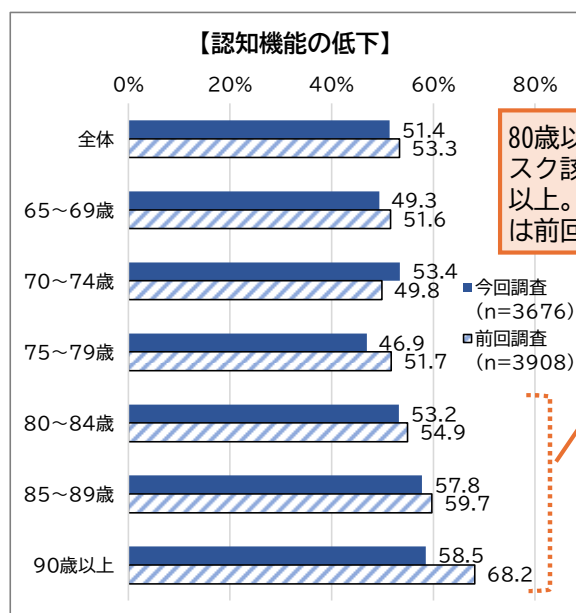
前回はコロナ禍の影響を外出抑制の理由とする回答が多くみられた。

「毎日ある」+「週に何度かある」は前回より増加。

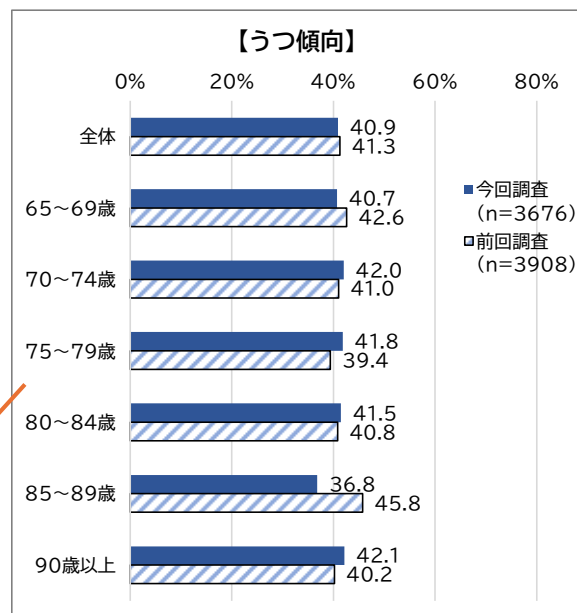
「毎日ある」+「週に何度かある」は85歳以上で5割未満。



③ 精神的・心理的要素

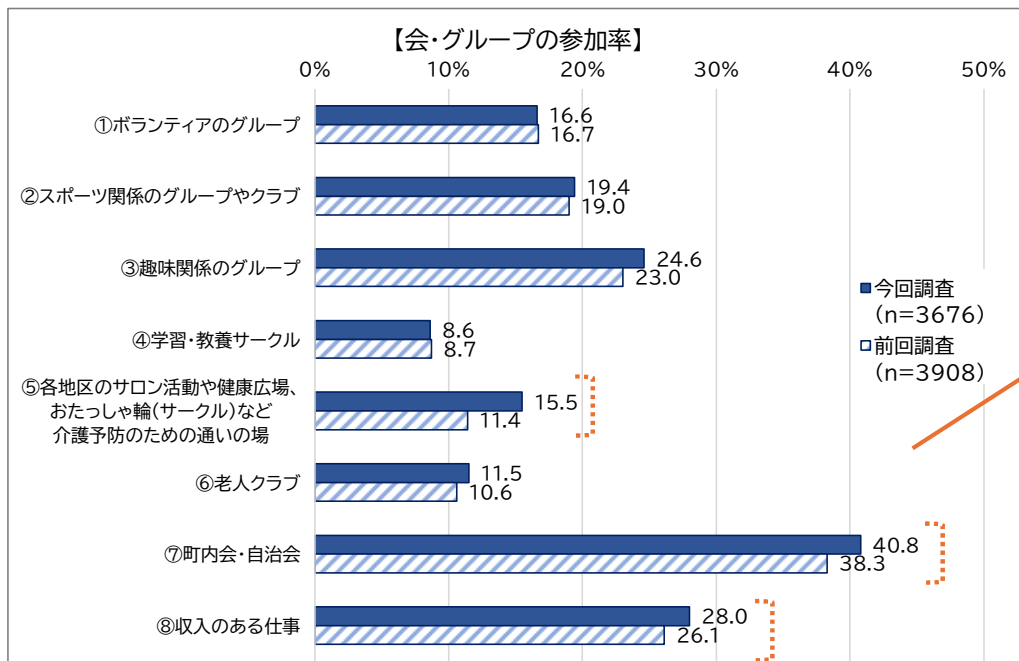


うつ傾向は年齢との関係がみられない。



2. 社会・他者との関わりと活動

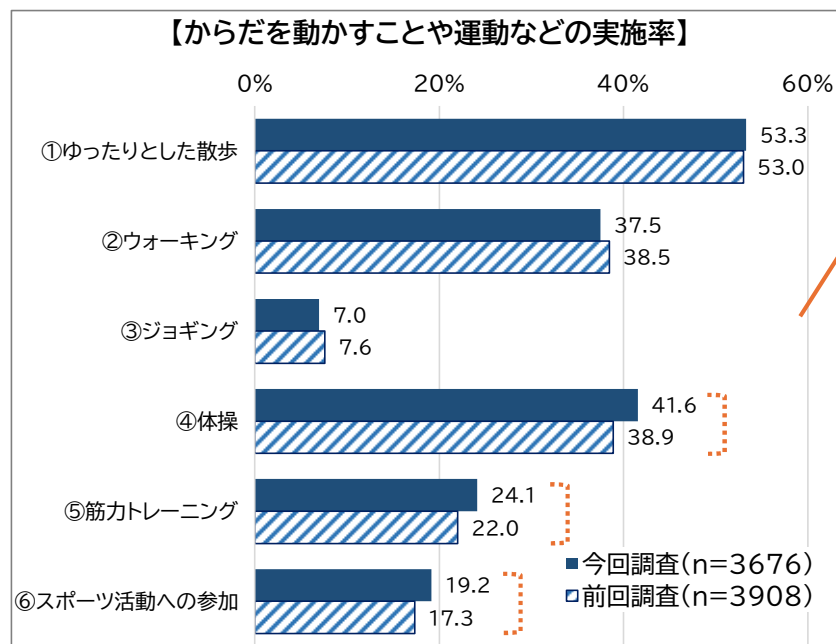
① 地域の活動への参加



「年に数回」から「週4回以上」までを合わせた『参加率』は、「⑤介護予防のための通いの場」4.1ポイント、「⑦町内会・自治会」2.5ポイント、「⑧収入のある仕事」1.9ポイントの増加。

国では「高齢期における就労等が要介護状態となるリスクの低減に効果がある」との研究成果が繰り返し報告されている」としている。

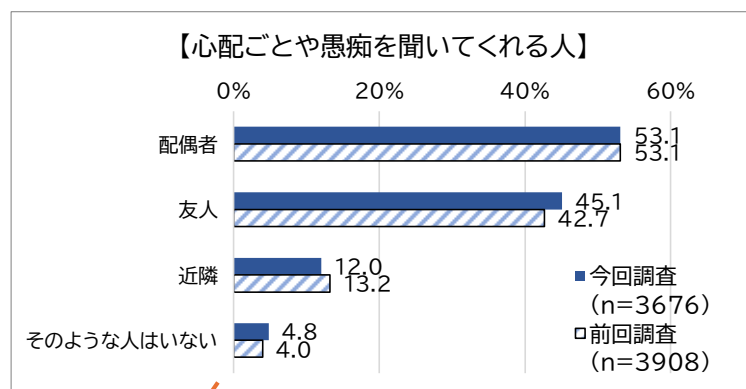
② からだを動かすことや運動の実施



「年に数回」から「週4回以上」までを合わせた『実施率』は、「④体操」「⑤筋力トレーニング」「⑥スポーツ活動への参加」が増加、「②ウォーキング」「③ジョギング」が減少。「①ゆったりとした散歩」はほぼ同率。

「全くしない」と回答した人を性別にみると、全ての運動等で男性の方が多かった。

③ 支え合い・助け合い

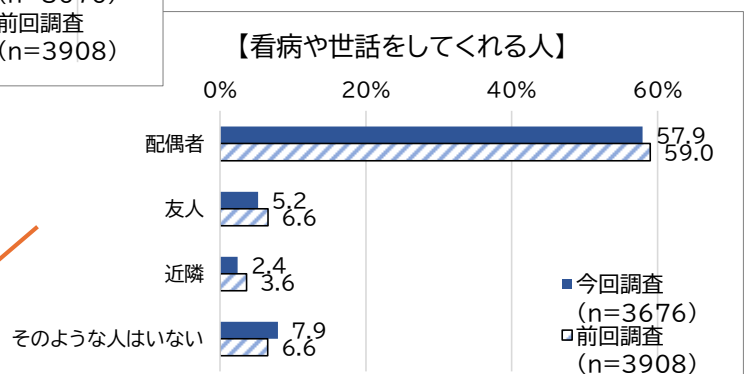


相談相手や世話をしてくれる人について、最も身近な家族である「配偶者」、交友関係を背景とする「友人」、ご近所付き合いを背景とする「近隣」を前回と比較。

「近隣」は地域共生社会の重要な要素。

「友人」は増加、「近隣」は減少。「そのような人はいない」が増加。

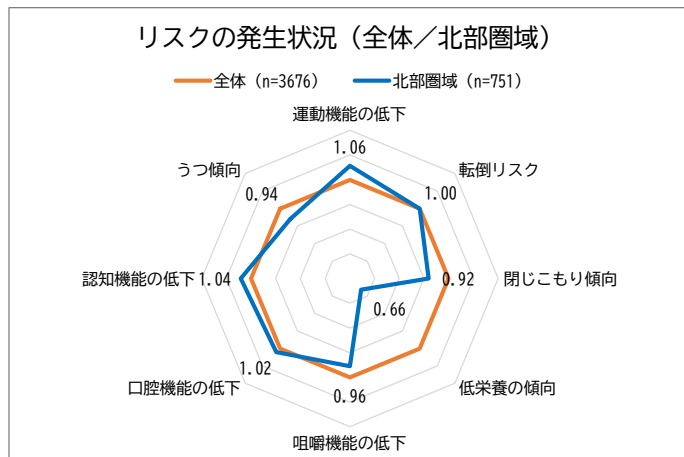
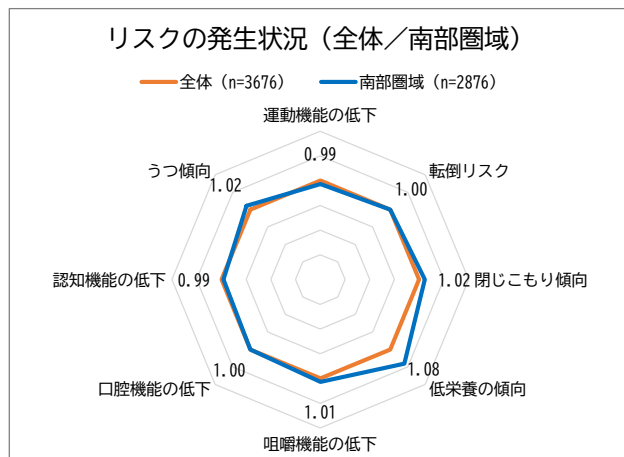
「配偶者」大多数。「配偶者」「友人」「近隣」のいずれも減少。「そのような人はいない」は増加。



3. その他高齢者を取り巻く状況

① リスク評価の圏域別比較

各リスク判定結果について、市全体を1とした場合の圏域別の状況



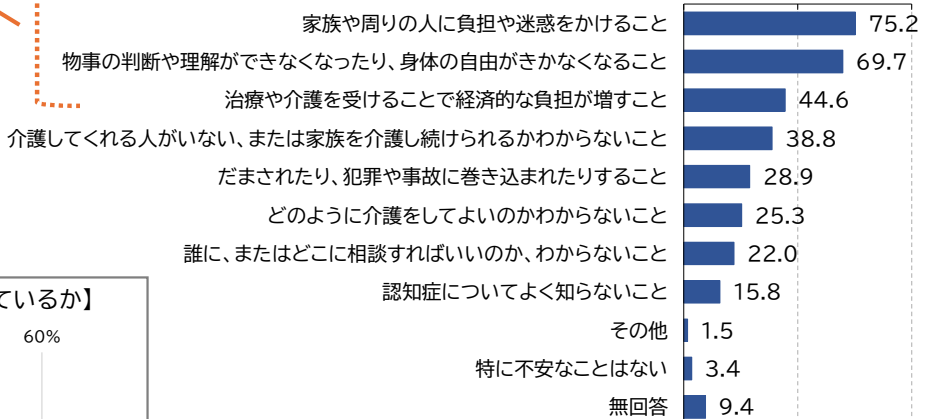
南部圏域では、「閉じこもり傾向」「低栄養の傾向」「咀嚼機能の低下」「うつ傾向」が全体より高く、北部圏域では、「運動機能の低下」「口腔機能の低下」「認知機能の低下」が全体より高い。

② 認知症について

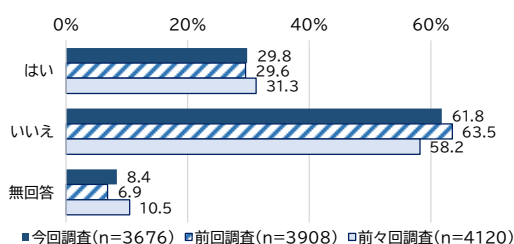
周囲に迷惑をかけることが最多。認知症による症状への不安、治療や介護に関する経済的負担が続く。

認知症に関する相談窓口についてほぼ6割が知らないという状況が続いている。

【自分や家族が認知症になったとき不安なこと】



【認知症に関する相談窓口を知っているか】



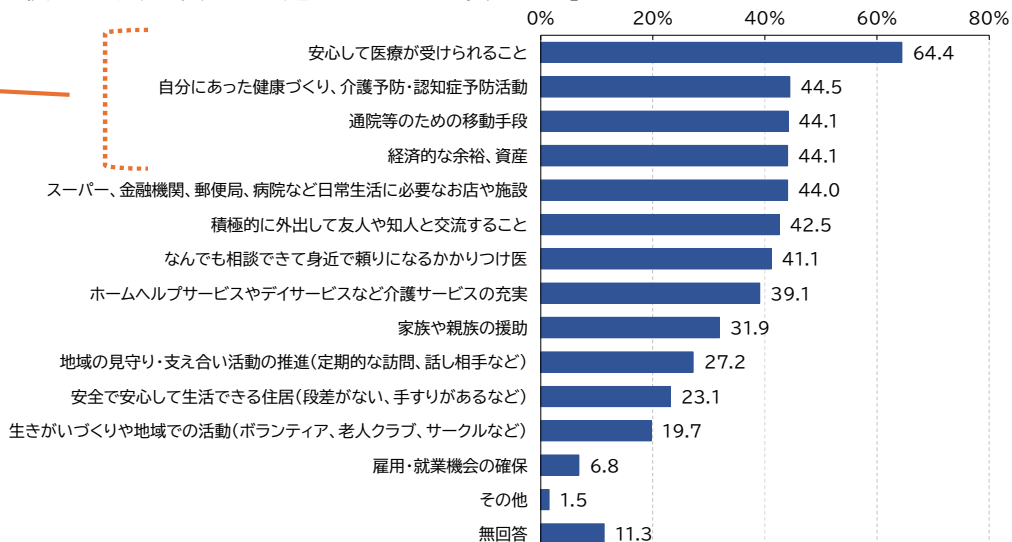
国の「認知症施策推進基本計画」では、「新しい認知症観」に立ち、認知症の人を“支えられる側”だけでなく、“地域で役割や希望を持って暮らす主体”として位置づけている。

③ 地域での安心な暮らしに必要なこと

安心して医療が受けられることが最多。自分にあった健康づくり、介護予防・認知症予防活動、通院等のための移動手段、経済的な余裕・資産が続く。

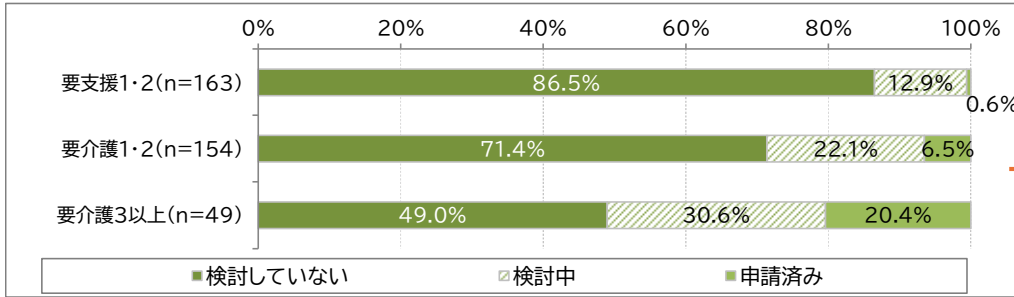
1位から4位までのニーズは前回調査時と変わっていない。

【住み慣れた地域で安心して過ごすために必要なこと】



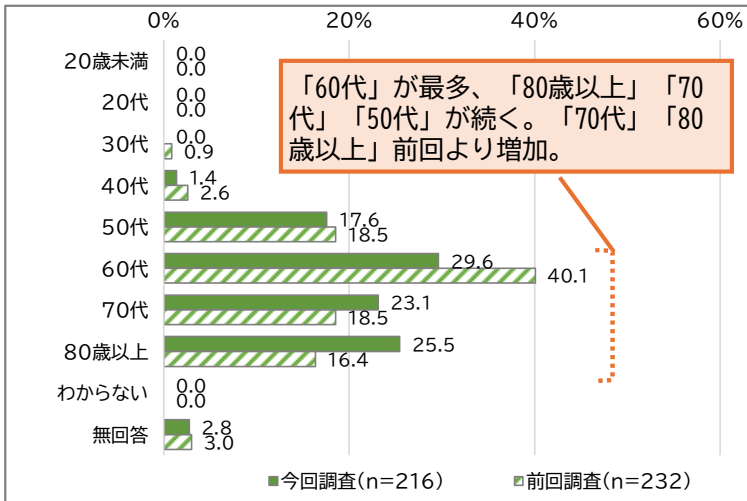
宮津市在宅介護実態調査結果 概要

1. 要介護状態区分別 施設等検討の状況

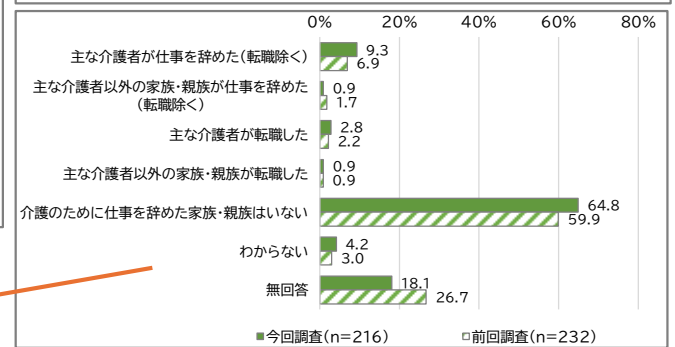
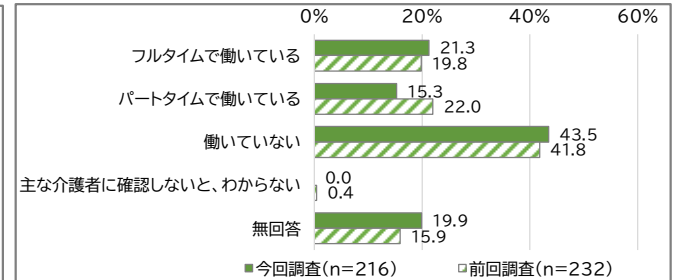


要介護状態区分によらず「検討していない」が最多だが、要介護度が上がるにつれて「検討中」が増加。

2. 主な介護者の年齢・勤務形態・介護を主な理由とする離職



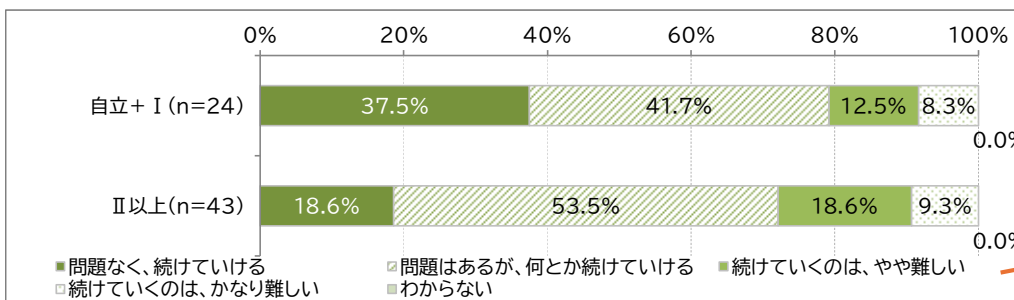
「60代」が最多、「80歳以上」「70代」「50代」が続く。「70代」「80歳以上」前回より増加。



「仕事を辞めた」が2.4ポイント増加、「仕事を辞めた家族・親族はいない」が4.9ポイント増加。

調査の主目的は「在宅限界点の向上」（より長く在宅で生活できる）、「仕事と介護の両立」（家族等の介護離職を減らす）。調査結果では介護家族の高齢化、フルタイム就労の増加といった状況がみえる。

3. 認知症自立度別 介護者の就労継続見込み



認知症自立度が下がると、「問題なく、続けていける」が減少、「問題はあるが、何とか続けていける」「続けていくのは、やや難しい」が大きく増加。

4. 要介護度別 介護者が不安に感じる介護

		全体		要支援1・2		要介護1・2		要介護3以上	
		今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回
第1位	認知症状への対応	23.6%	36.5%	25.6%	19.3%	30.1%	47.7%	35.1%	42.2%
第2位	夜間の排泄	22.7%	30.3%	23.1%	14.7%	30.1%	35.1%	32.4%	48.9%
第3位	外出の付き添い、送迎等	19.9%	29.0%	35.9%	31.2%	23.7%	27.8%	16.2%	26.7%
第4位	食事の準備（調理等）	19.4%	27.0%	17.9%	25.7%	26.9%	26.5%	24.3%	31.1%
第5位	入浴・洗身	18.5%	27.4%	25.6%	15.6%	21.5%	34.4%	24.3%	33.3%

「認知症状への対応」が最多、「夜間の排泄」「外出の付き添い、送迎等」が続く。この上位3位は前回と同じ。「認知症状への対応」と「夜間の排泄」は要介護度が上がるにつれて不安感が増加。